

## 鉢物アジサイ生産における EOD-heating 処理の省エネ効果

### 研究のねらい

近年、EOD(End of Day)-heating処理（日没後から数時間の昇温処理）を活用した暖房費低減技術が開発され、様々な品目への応用が期待されています。

本県の主要品目である鉢物アジサイは、母の日出荷に向けて、厳寒期（1月下旬～2月上旬）から加温が必要となるため、生産費に占める暖房費の割合が高いという課題があります。

そこで、EOD-heating処理が鉢物アジサイの開花・生育に及ぼす影響と省エネ効果について検討しました。

### 技術の特徴

1 EOD-heating処理は、日没後4時間を21℃、以降11℃管理とし、慣行（夜温16℃一定）と比較しました（図1）。

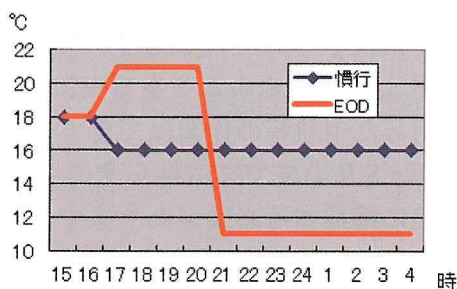


図1 温度管理モデル（例：日没17時）

2 EOD-heating処理により、開花はやや遅れるものの、生育は慣行と同等となりました（表、写真）。また、この処理により高い省エネ効果が得られ、2月～3月の低温期ほどその効果が高いことがわかりました（図2）。

3 この技術は、時間帯毎に温度を変えるシステム（多段式サーモスタット）の導入が必要です。

表 開花・生育に及ぼす影響

品種名	処理方法	開花日 (月/日)	樹高 (cm)	株径 (cm)	装飾花色(色測値) <sup>2)</sup>		
					L*	a*	b*
フェアリーアイ	EOD	4月22日	36.7	45.6	62.5	37.6	-7.3
	慣行	4月21日	39.3	46.4	62.7	38.1	-6.8
クリューヘルツ	EOD	4月25日	37.7	46.2	59.2	45.5	3.0
	慣行	4月20日	38.8	46.9	59.8	44.1	3.4

2)L\*は明るさを表し、0に近いほど色が濃くなる。a\*は緑～赤を表し、プラスの数値が多いほど赤味が強い。b\*は青～黄を表し、マイナスとなるほど青味が強い。



写真 開花時の生育状況（品種：フェアリーアイ）

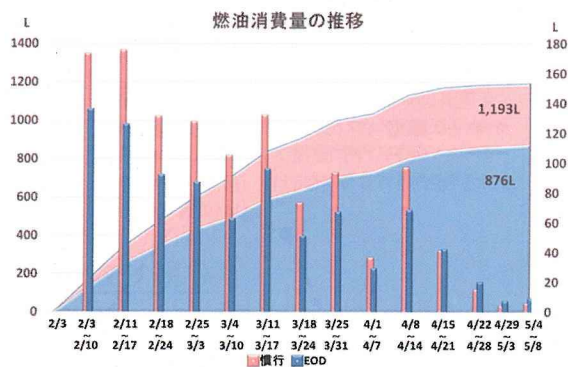


図2 栽培期間中および1週間毎の燃油消費量の推移

### 今後の取り組み

今後は、処理時期の違いが開花・生育に及ぼす影響や処理方法の検討を行い、更に省エネ効果の高いEOD-heating処理技術の開発を進めていきます。

（執筆者：小林 智彦）